

令和4年3月28日  
経済観光文化局文化財活用課

## 博多旧市街に残る「博多の仙厓さん」が多くの画を制作した 「虚白院庵室」を福岡市の文化財に指定しました

博多区御供所町に残る幻住庵の「虚白院庵室」について、本日、福岡市公報で告示を行い、福岡市指定有形文化財（建造物）に指定いたしました。

なお、下記日程で指定書の交付と報道機関向け現地見学会を行います。市民の皆さんへの広報にご協力ください。

### 記

- 1 指定名称 虚白院庵室(きょはくいんあんしつ)
- 2 住 所 福岡市博多区御供所町7-1
- 3 所 有 者 宗教法人 幻住庵
- 4 建設年代 江戸時代後期建立、大正14(1925)年および昭和44(1969)年移築
- 5 構造・規模 木造平屋(一部二階)建、切妻造、棧瓦葺 桁行10.1m、梁間8.1m
- 6 概 要 虚白院庵室は、『寺籍調査票』に「仙厓和尚閑栖ノ庵 文化八年」とあり、部材の経年感からも、江戸時代後期に建立された可能性が非常に高い。また、市内における禅宗寺院の庵室は、他に聖福寺仙厓堂（18世紀末）が存在するのみで希少である。さらに、仙厓が聖福寺の住職を退いた後の隠居所となり、多くの「厓画」を制作した遺構としても歴史的価値が高い。
- 7 報道機関向け現地見学会
  - (1)日時：令和4年3月30日（水）  
午後2時～午後4時
  - (2)開催場所：幻住庵境内  
（福岡市博多区御供所町7-1）
  - (3)現地見学会に参加を希望される方は、事前に文化財活用課担当までご連絡ください。  
※提供した写真を掲載する際は、別紙の注意事項を遵守してください。



## 新 福岡市指定文化財（建造物）の概要

名称：虚白院庵室 1棟

### 1. 概要

虚白院は、聖福寺塔頭の一つで、現在その庵室が幻住庵境内に残る（図1・2）。博多の豪商であった嶋井家の菩提所・弓一庵（きゅういちあん）を前身とすると伝わる同院は、宗室（1539-1615）の7回忌に際し、元和7（1621）年に「再建」されたが、18世紀後半から19世紀初頭には廃絶していたとみられる。のち文化9（1812）年に聖福寺の住職を退いた仙厓義梵（せんがいぎぼん、1750-1837）の隠居所となり、この年までに再興されたと考えられる。

庵室は仙厓の没後、奥村氏（筑前名所図会を編んだ玉蘭の一族）の所有となり、明治3（1870）年に同氏から幻住庵へ譲渡された（図3-1）文化～明治期）。大正後期になると「庵室は腐朽」が進み、88歳で没した仙厓の88回忌にあわせ、仙厓和尚遺蹟保存會を設立して寄付を募り、「再建」に着手している。この事業により庵室は、大正14（1925）年、原位置から墓地参道をまたいで東へ移築され、さらに玄関を西にむけた南北棟として配置された（図3-2）大正期）。昭和44（1969）年、東西棟に改修（曳家）され、仙厓150年遠忌にあわせ、昭和61（1986）年に庵室の修繕を行っている（図3-3）昭和期）。

庵室の現況（図4）は、桁行10.1m、梁間8.1m、木造平屋（一部二階）建、切妻造、棧瓦葺で、下屋が四方に付く。北側に別棟の東司（便所）が附属する。

一階のほぼ中央に、玄関（二畳土間）・取次（二畳板張り）・廊下（四畳板張り）が並び、廊下には裏口と階段が付き、それぞれ東司または二階へ通じる。一階西側には、六畳の座敷2間が南北に並び、一階東側には、土間・二畳（板張り）・四畳を配する。四畳は、南側と西側に下地窓を設け、南側は円窓とする。庵内には炉が保存されており、四畳は茶室として利用されたと推測できる。二階には、四畳半と三畳の二室を配する。

また、庵室の部材は、経年感から三時期に大別でき、それぞれ1）文化期、2）明治～大正期、3）昭和期に相当すると考えられる。文化期の材（当初材）は、下屋および玄関から廊下に至る柱や梁に比較的多く残る。柱は面取りされ、一辺3.8寸を測る大型のものが多い。なお、明治から昭和期の柱は一辺3.4寸が主となり、小型となる。

### 2. 指定理由

虚白院庵室は、『寺籍調査表』に「仙厓和尚閑栖ノ庵 文化八年」とあり、部材の経年感からも、江戸時代後期に建立された可能性が非常に高い。数回の曳家・改修が行われるが、比較的多くの当初材が残り、現在みられる平面は、仙厓時代の平面をほぼ留めているといえる。市内における禅宗寺院の庵室は、他に聖福寺仙厓堂（18世紀末）が存在するのみで、当遺構は希少価値が高い。さらに、閑居時代の仙厓が多くの「厓画」を制作した遺構としても歴史的価値が高い。

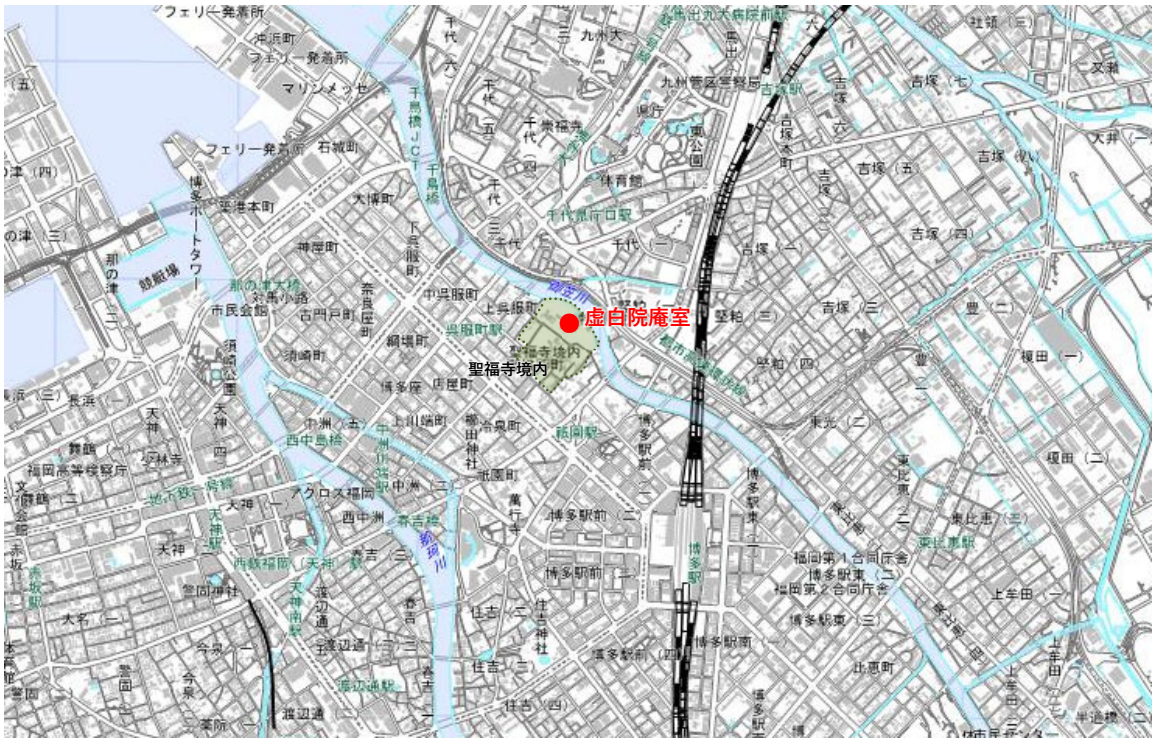


図1 虚白院庵室位置図 (縮尺：1/25,000)

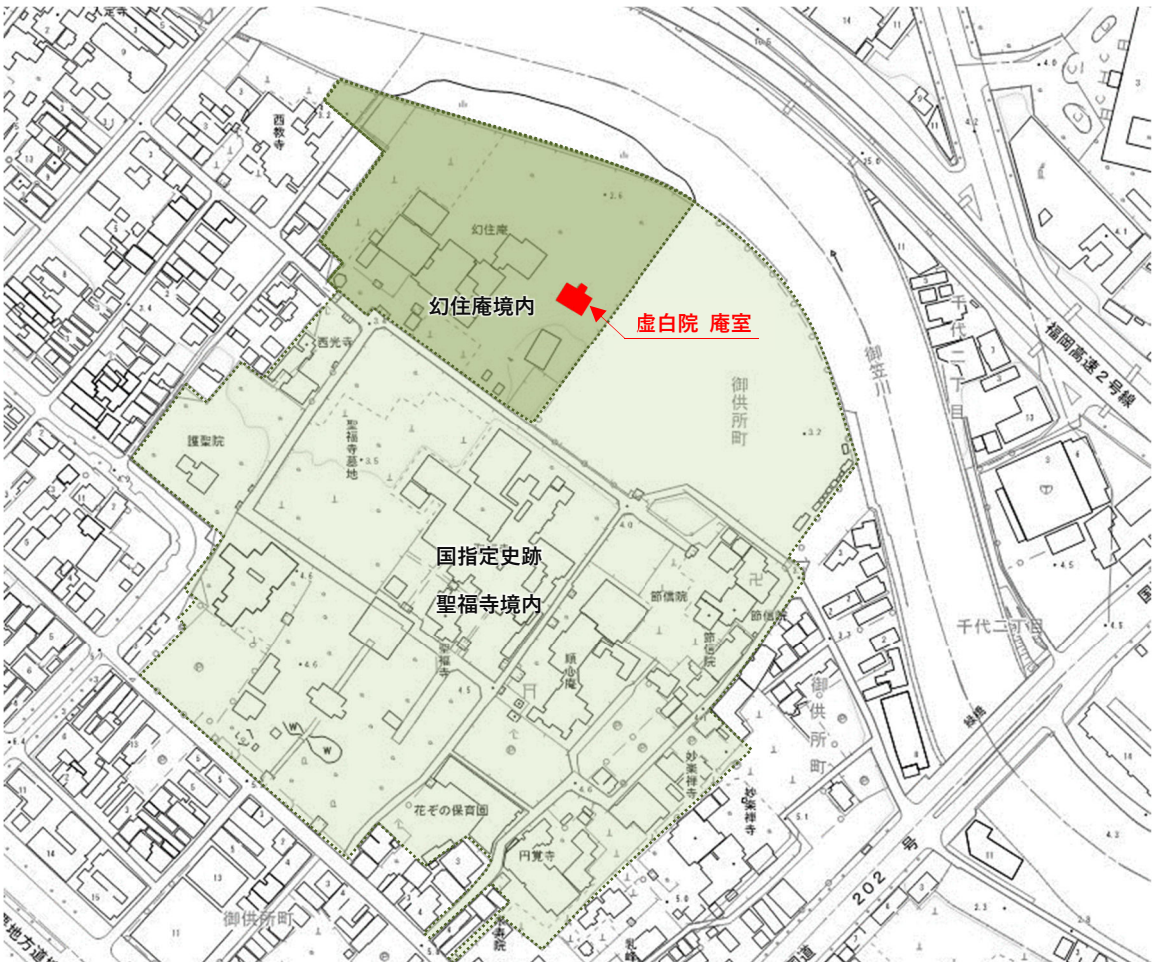


図2 聖福寺境内と虚白院庵室 (縮尺：1/2,500)

## 1) 文化～明治期



図3 虚白院庵室変遷図



写真1 虚白院庵室 (明治後期撮影カ)



写真2 不朽がすすむ虚白院庵室 (大正後期撮影カ)

## 2) 大正期



写真3 大正移築後の虚白院庵室 (大正末年～昭和初年撮影カ)

## 3) 昭和期



写真4 現在の虚白院庵室 (令和3年撮影)

※写真は幻住庵所蔵

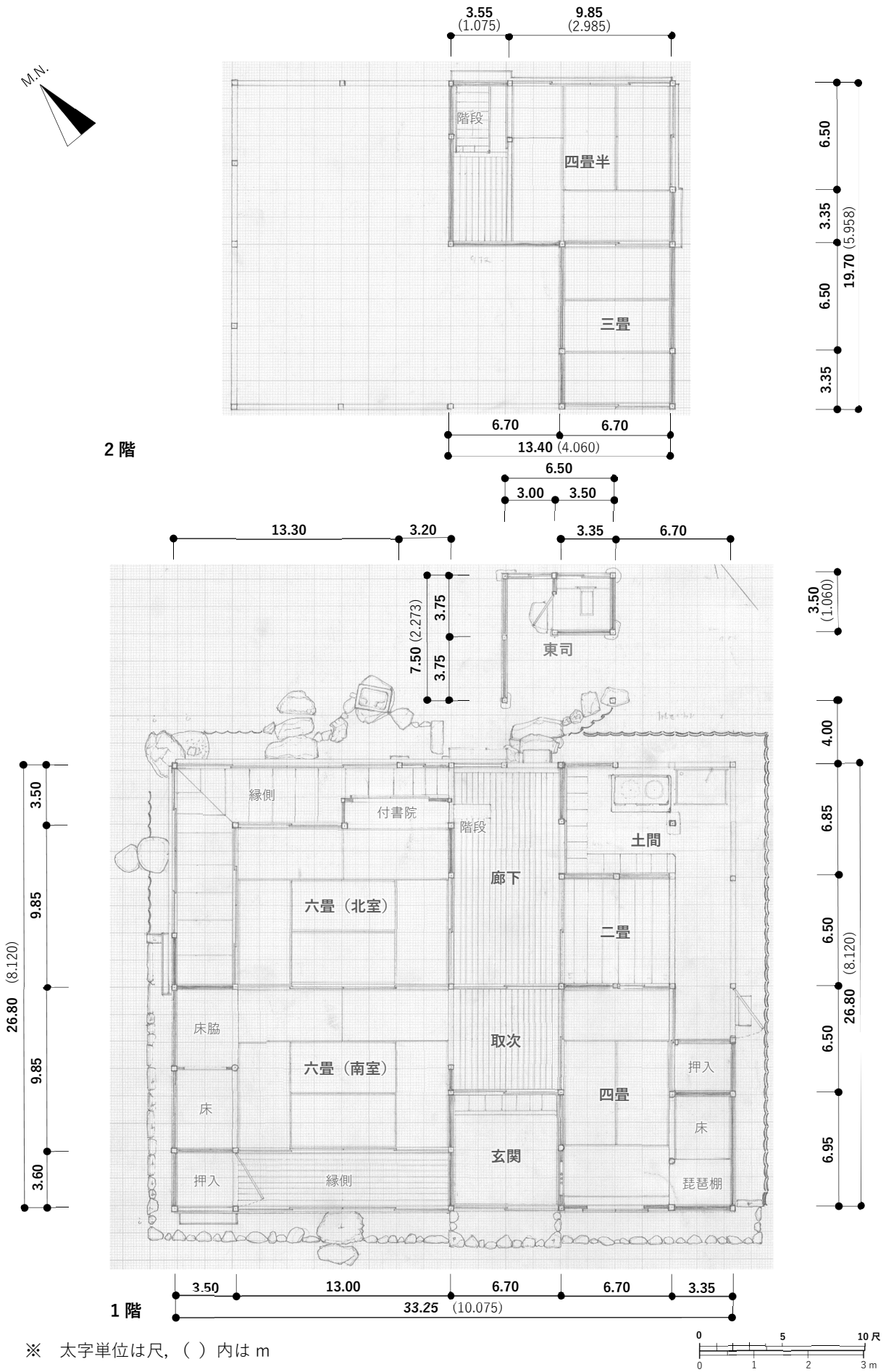


図4 虚白院庵室平面図 (縮尺: 1/100)



写真5 虚白院庵室全景  
(前面に仙厓が晩年に揮毫した絶筆の碑が立つ)



写真6 四畳下地窓 (左は床・琵琶棚)



写真7 六畳北室  
(縁が巡り、礎石に凝灰岩使用)



写真8 六畳北室 (花頭窓を開けた付書院設置)



写真9 二階四畳半 (肘掛け窓を設置)



写真10 二階四畳半と三畳

## 「博多の仙厓さん」 せんがいきほんぎ 仙厓義梵 (1750-1837)

聖福寺（臨濟宗妙心寺派）の聖福寺第 123 世・125 世として住持を務めた仙厓は、その重責から解放され、隠栖の身分となると本格的に絵画制作を行います。

仙厓の描く厓画からは、彼が当時の博多を代表する学者、儒者と深い親交を結び、自由な境遇を楽しむ姿がうかがえます。のびのびとしたさわやかな筆による簡略な表現により、庶民風俗を生き生きと描き出しています。それは、当時の博多の人々の暮らしや風土を知ることができる貴重な資料といえます。

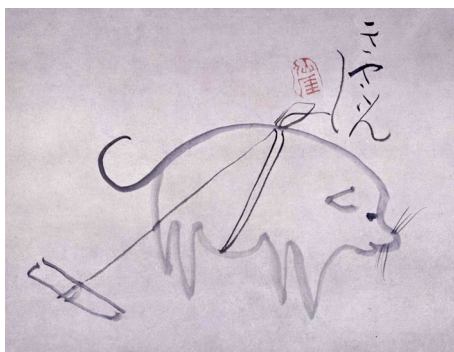
### 【来歴】

寛延 3 (1750) 年	美濃国（岐阜県）で生まれる
宝暦 10 (1760) 年	美濃市臨濟宗清泰寺（せいたいじ）で出家
天明 7 (1787) 年	妙心寺塔頭雲祥院（うんしょういん）の推挙で、博多聖福寺の 122 世の弟子となることを承諾
天明 9 (1789) 年	聖福寺第世 123 世となり、23 年間、住持の職を努める 当時、聖福寺は、十分な寄付を受けられず、荒廃しており、仙厓はその再興を目指し、精力的に活動を行う
文化 8 (1811) 年	聖福寺住持を隠退
文化 9 (1812) 年	虚白院・庵室に移る
天保 7 (1836) 年	再び、第 125 世の住持となる
天保 8 (1837) 年	発病のため病床につき、88 才の天寿を全う



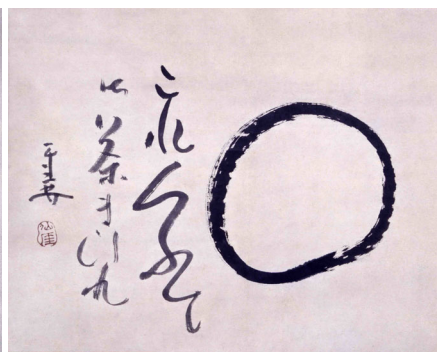
『松囃子図』

博多を代表する行事の様子が生き活きと描かれる。当時の人々の暮らしを知る貴重な資料。



『犬図』

・ほぼ一筆で描かれた簡略な表現だが、実際やってみると難しい。「きゃふんきゃふん」という鳴き声もあいまって全体に愛らしい。



『円相図』

・大きな円が描かれ、その隣に「これくふて御茶まひれ」と添え書きされる。仙厓のユーモアがあらわれている。

※全て福岡市美術館所蔵

### 《参考文献》

福岡市美術館編『仙厓—その生涯と芸術』1992年 福岡市美術館協会刊行

## 【 写真利用上の注意 】

提供した画像ファイルを使用する場合は、次のことを遵守してください。

### 1 指定文化財 虚白院庵室 (p3・p5)

- 写真1・2・3は「幻住庵所蔵」の表記を入れてください。
- 写真4～10は「福岡市提供」の表記を入れてください。

### 2 仙厓資料 (p6)

- 松囃子図は「福岡市美術館蔵(三宅コレクション)」の表記を入れてください。
- 犬図と円相図は「福岡市美術館蔵(石村コレクション)」の表記を入れてください。